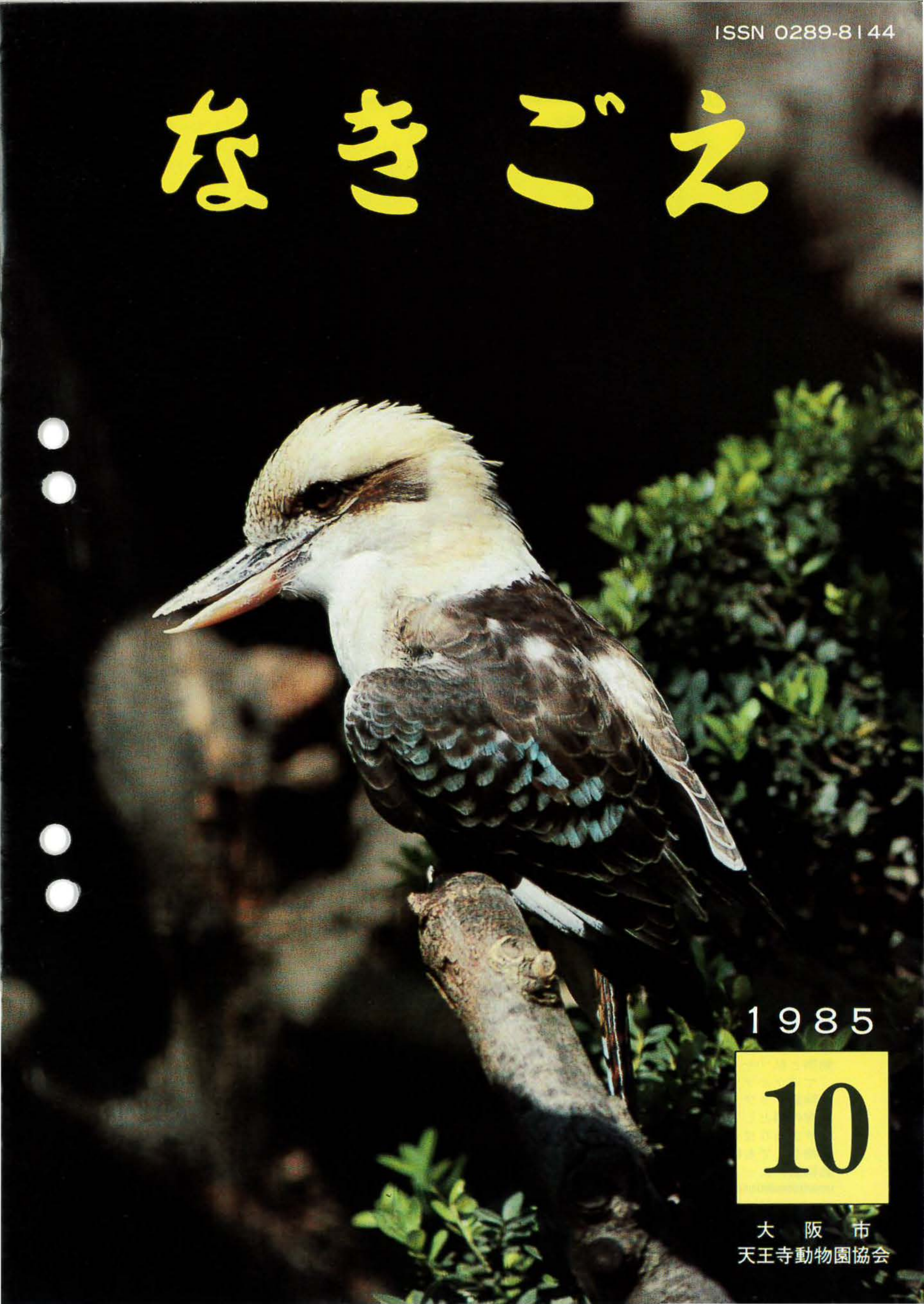
ISSN 0289-8144

なきごえ



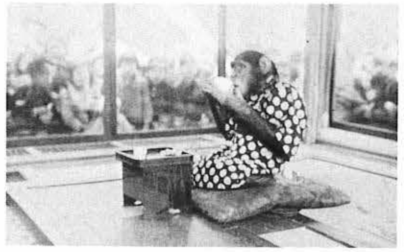
1985

10

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私 ―― 天王寺動物園と私

香川　勇



私はアメリカ留学中マーチン氏の「ライオン」と題する本を読んで、アフリカの野生動物に深く心を引かれた。是非アフリカへ行ってみたいと念願しつつ、日本に帰って来た。当時、天王寺動物園の園長だった林佐市氏にアフリカへ動物を捕りに行きたいと話をもちかけた処、それは面白いかもしれんと言ってくれた。その頃迄は、外国へ動物を集めに出かけた人もいなかったし、動物の輸入はオランダや英国船で働く中国人の船員が内職で神戸に持ち込むのと、何十年目かに来る外国のサーカスが残していくもので結構間に合っていた。そこで私はアフリカ行を決心して、神戸港で乗船、1ヶ月目にモンバッサ港に上陸した。

港の周辺の白い砂浜には葉のない大木バオバブが生い立ち、サファイヤ鳥、ルビー鳥等の極彩色に輝く数限りない珍鳥が乱舞するのを見て、上陸早々夢想だにしなかったこの光景に全く驚嘆してしまった。この町から週1便しかない貨客混合と言っても客車はたった一輌の列車に乗込んで、ナイロビに向った。枕木は鉄板を使っており、薪を燃して、暗黒の夜空に異様な音を響かせながら高原へ高原へと走り続ける。列車の捨火で、あちこちと燃え広がる草原に夜が明ける頃、車窓に移り行く縞馬の群、駝鳥の一列縦隊の行進、その間を飛び跳ね廻るカモシカを見て、ああ、我遂にアフリカに在り!!と心の奮い立つのを禁じ得なかった。

この興奮の覚めやらぬ内に、ナイロビに着いた。ここで早速探検用の中古車を買い入れ、赤道直下の強烈な日ざしの下を連日情報を求めて走り廻った。ある日の事チンパンジーがいると聞いて酋長の館を訪れた。3メートルもの高い分厚い茅の城壁に囲まれ、入口には槍をもった番人が両側に黒々と立っていた。私は内心非常に怖かったが、平気な顔で入って行くと、部族の方では命知らずの男と呆気にとられた様子だった。けれどこの猿はヒヒだったのでガックリ。しかし遂に酋長が、「リタ」と呼ぶ本物に巡り合う日が来た。

風貌も立派、落着きもあり、リタは既にこの部族の中の一員として可愛がられていた。私は酋長の意のままに金と物を供したので、話はついたが、リタと彼等の別れはやはり辛いものであった。ほかで駝鳥等を手に入れて帰国の途についた。

リタは敏感なだけに船酔いして何日も食欲がなく、私は同室して面倒を見たが、その甲斐あって神戸港に上陸、動物園に無事落ちつく事が出来た。リタは稀に見る才猿で、見る見る内に多くの珍芸を披露するようになって観客を大いに喜ばせた。この人気で入園者はたちまち倍増し、当局ではこれに応えて新しく南園を拡張、獣舎も次々と新設された。

それから私は毎年のように海外に出かけて、次はキリンの夫婦をケニアから、また日本では当時まだ来たことのないリカオン、ブチハイエナ、チーターも日本へ連れて来た。

昭和9年の4回目のアフリカ探険では日本人として初めてナイルの源、ビクトリア湖畔から千古不滅の雪を頂くアルボンゴ山の麓を進み、ジャイアント族の住むルアンダ国からピグミー族の住むコンゴに入り色々と苦労の末、チンパンジーの「チビ公」「ソバカス」の外2頭を入手して、途中色々の事もあったが、コンゴを出て、3ヶ月目にやっと動物園入りをした。

これでチンパンジーは総勢5頭にもなり、それぞれユニークな珍演をして大変な人気を博した。それもその筈、日本中のどこの動物園にもチンパンジーを入れた事のない時だったからである。

私は大阪朝日新聞社のアサヒニュースにフィルムを、グラフに写真を、新聞には紀行文を提供したところ、社から岩田千虎先生に別注した、キリンのブロンズ像と金メダルの栄誉賞をいただいた。それから私は東京に移り住んで、何年も経って、動物園を訪れた日の事、演芸中のリタを観客に混じって見ていると、リタはすぐ私を見つけて、跳びはねて喜んだ。このリタの賢い仕草は今も園に残る語り草である。

その後十数年経って、終戦の翌年の春、高松の町角で、全国園長会に会友として出席のため、来高された林佐市先生に偶然出会った。何をしておられますか、と聞かれ、中学校長をしております、と答え、拙宅にお連れして、期間中滞在していただいた。

当時集まったのは、上野の古賀、名古屋の北王、熊本の茨木、鹿児島の梶原、大阪の林、寺内、筒井の7先生であった。

（元福岡市動物園長）

写真説明：正座して食事するリタとそれを見守る子供たち（昭和10年頃）

なきごえ10月号もくじ

動物と私 ……………………………………2
“ヤブツカツクリ” ……………………………3
動物園グラフ・動物園日記 ………………… 4·5
教育の場としての動物園 …………………… 6·7
駆けまわりヨーロッパ動物園記 …………… 8·9
動物なんでも相談室 ⑪ …………………… 10
動物園ニュース ……………………………… 11

表紙の写真説明

“ワライカワセミ” *(Dacelo novaeguineae)*

今から91年前の1894年（明治27年）に上野動物園へ来園したのが我国の初来記録です。現在では7園で23羽が飼育されて。早く繁殖に成功して、そのけたたましい笑い声を全国津々浦々にひびかせたいものです。

（撮影：中川　哲男）

“ヤブツカツクリの誕生”

7月29日、人工ふ卵器内であたためていたヤブツカツクリがめでたくふ化しました。ふ化日数は44～55日で、日本では初めての誕生です。

動物園グラフ

“このお尻はダーレ？”

動物の後姿をゆっくり見る機会は少ないと思いますが、それぞれ特徴があってなかなかおもしろいものです。今回は草食動物の後姿を特集してみました。さあ、これからのお尻を見て、動物名をあてることができますか。

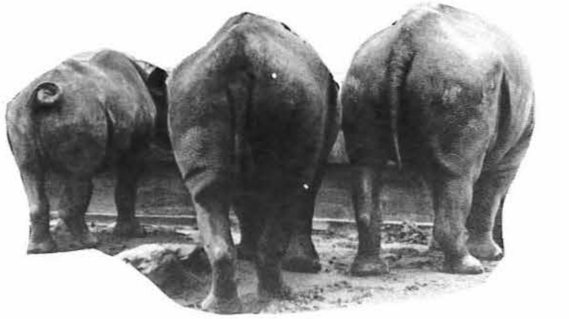
〔解答は右ページの下〕
（撮影：堀　　弘）

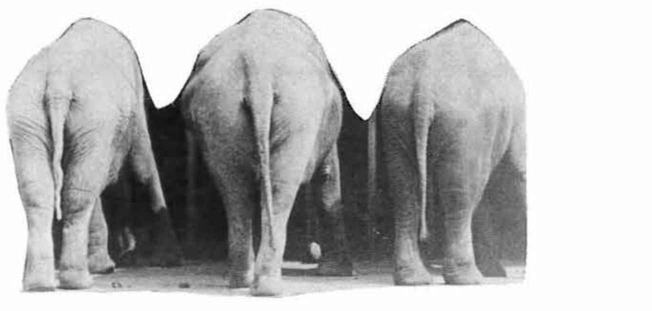
← ①
ヒントなし

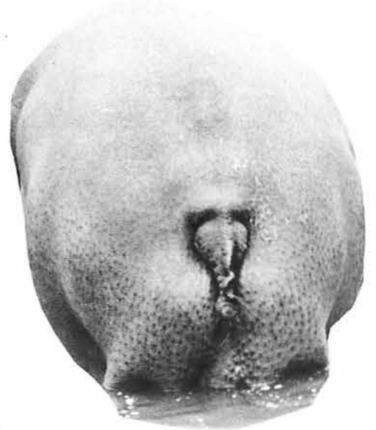
← ②
前肢の黒い帯が
一つの特徴

③ →
ジャイアントパンダ
のような白・黒２色
の動物です。

④ →
白いハート型の
お尻が特徴







← ⑤
大きなお尻に小さな
しっぽが一つの特徴

↑ ⑥
よろいのようなお尻

⑦ →
巨大な体のわりには
お尻はほっそり

① グラントシマウマ
② エランド
③ マレーバク
④ モウコガゼル
⑤ カバ
⑥ クロサイ
⑦ アジアゾウ

8・9月の動物園日記

8／10.　天王寺動物園総合計画分科会が、行なわれました。
8／11.　11年間飼育のトムソンガゼルの雄が、老衰で死亡しました。
8／12.　カニクイザルが１頭生まれました。
8／13.　先月多摩動物公園より入園したアミメキリンの“ナガヤ”２歳は、運動場の人よけ柵にぶつかり転倒しましたが、幸いケガはありませんでした。
8／14.　本年４産目のニホンジカが生まれました。クロオオカミが交尾しました。キジ類にワクチンを接種しました。
8／18.　WWFキャンペーンが行なわれました。
8／19.　インドゾウの“ラニー博子”が右牙の先端を折りましたが、歯肉には異常はありませんでした。
8／20.　リュウキュウイノシシが５頭生まれました。この出産が３産目となります。
8／23.　トキイロコンドルの雄が、痛風で死亡しました。
8／25.　第３回動物のお話とスライドの会「ヨーロッパの動物園を訪ねて」を開催しました。
8／27.　ササゴイの性別チェックを、内視鏡を使って行ないました。

8／29.　フタコブラクダの雌“サクラ”が転倒、自力で起立することができないため、体にロープをかけ起立させました。
8／30.　フェレット（ケナガイタチの家畜化されたもの）が、６頭生まれました。
9／1.　ベンガルトラの雄“ルイ”と雌“ノン”が交尾しました。
9／2.　グラントシマウマが闘争し、雌の“レディ”が堀に落ちましたが、ケガはありませんでした。
9／3.　サル舎建設プロジェクト会議を開きました。
9／4.　サシバを１羽保護しました。
9／5.　本年生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。８月16日生まれが、16kg、人工乳を補給している８月24日生まれが、13kgでした。
9／6.　キーウィ、ハリネズミ、ハリモグラ、ムササビの体重測定を行ないました。
9／8.　ボランティアーによるスポットガイドが、園内で行なわれました。チンパンジーの雄“リッキー”の健康診断を行ないました。
9／9.　頭部化膿で隔離治療しているブラックバックの雌を矢吹を用い麻酔し、治癒状況を確認しました。

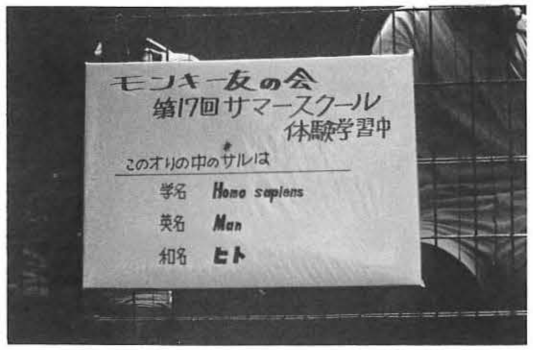
教育の場としての動物園

広瀬　鎮

モンキー友の会

たしかに動物園は、これまでよりも一段と市民サービスに徹しなければならないと思う。動物園の博物館化をめざしての長い年月が、ことさらに、その思いを駆りたてる。

今夏の大学生を対象とした館外指導会も無事おわったものの参加女子学生の一人からこんな声に接し驚いた。“モンキー友の会出身の母は、今でも友の会の昆虫観察会をよく覚えています。先生によろしくと言っていました”。自然ウオッチングの途中で、



第17回サマースクール体験学習「サルになる」

この学生は母なる人のメッセージを伝えてくれたのであるが、そんなにも年月が経ってしまっているのかという思いが強い。モンキー友の会は東海地方でもユニークな存在であり、戦後の博物館友の会、自然観察会の草わけ的存在である。野猿公苑から世界サル類動物園へと、サルの研究所とともに愛知県第２番目の登録博物館としても出発したモンキーセンターは、モンキー友の会を育てることに成功した。いつの時代にも根底に「サルと自然」への接近がテーマとなっていた。ニホンザルが日本の自然環境の中の環境指標動物であることを、会員も私共もいやというほど知らされてきたのである。

動物園への挑戦

戦後の日本の動物園復興には、上野動物園をはじめ、都市の大型動物園が果たした役割りは大きい。そして上野動物園の子供動物園を中心とした低学年の児童・生徒への各種スクールは年々活発となっていった。しかし、なかなかその活動は組織的、体系だったものには至らなかった。動物園の設置、運営の母体の問題や、学校と社会教育の断絶などもわざわいしていたものと考えられる。しかし、上野動物園の「動物愛好会」を中心として動物園、水族館協会事業の活発化と共に動物園利用者へのサービスが進められたことから地方の動物園も次第に意欲的に動物園教育に関心を示すに至った。そして今日、動物園への知的な要求は日に日に高まってきているのである。モンキー友の会も、モンキーセンターの博物館機能の増大と共に組織活動も、例会・講読会の二会員に分化していった。「サルの動物園は、サルの博物館である」、この考え方のもとに動物園の諸事業もとりつく視点を明確にもつことができたと考えている。もっとも、友の会活動そのものは、当時の動物園界における科学教育のおくれ、具体的には、未組織、要員不備、教育の不発達に対する挑戦であったかも知れない。「動物園は博物館である」。こうしたスローガンは、今日では、動物園教育活動を

飼育技術員による展示動物解説

支える基本理念ともなっているものと信じているが、動物園教育の目標については、現在でも、まるで定見がないかの如くに色々とりざたされているが、もともとそんなに窮屈なものでも、難かしいものではない。動物園の許された範囲内での見学者に対する精一杯の教育的配慮をもった働きかけに他ならないと思っている。現在では、学校教育を真似た、固定対象化、能率化、教条化などを全面的に打出した動物園教育の例にぶつかることもある。やはり動物園教育というのは、そもそも社会教育の一環であり、生涯学習のなかに組込まれたものとしてとらえられる動物という生きものを扱った専門機関が、意欲的に行なう一つの試みに違いない。いわゆる苦痛のない教育（ペイレンス・エデュケーション）としての評価をうるものなのである。

動物園は博物館そしてその教育者は

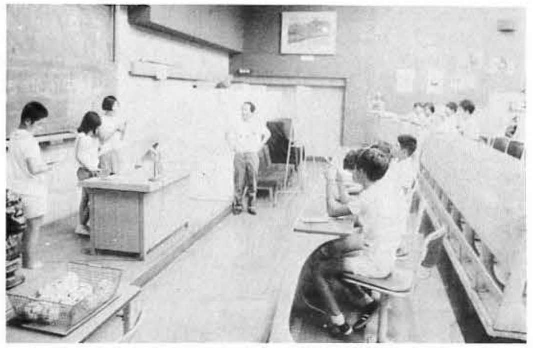
幸い現在では、動物園教育を論じた著作も現われて勉強の方法もはっきりしてきた。それだけに若い人たちの中からも動物園批判も起こってきた。珍しい動物を集め、動物繁殖に力を入れるだけでは、市民の満足や要求に答えたことにはならない。動物たちが本来あるよりも豊かに立派にみえる、よりよき環境が望まれ、野生からのあづかりもの、貴重な下宿人のような生きものたちの生涯を立派に守り育てなければならぬという使命観が必要である。そしてこの使命観の発露として動物園教育が考えられるべきなのである。動物園もまた、収集、保存、展示、調査、研究と呼ばれる博物館の諸機能をすべて満たさねばならないという要求や、人びとの世論の上にいまや立たされている。それだけに、最も欠除し、弱点となっているのが、教育のための体制であるというのは、動物園にとって生命とりではなかろうか。動物園教育者、教育のための施設、教材、そして博物館なみの学芸・教育・普及強化といわれる専門職員の制度は残念ながら十分な保証をえていないのが現状なのである。今日多くの新設動物園が、動物会館や、資料館、図書館等の建設を通じ教育事業に関

第21回サマースクールボランティアによる指導

心を示しはじめてはいるが、動物園専門教育者の設置はやはりまだ先のことのようである。

博物館は罪のつぐないを……

すべての動物園が真剣にとり組まねばならぬ仕事は自然保護、動物保護であることは、多くの知るところであるが、今日の動物園は第９回国際博物館会議（ＩＣＯＭ）で要求されたごとく、「罪のつぐないをもつ文化機関」の意識をもつ必要もありそうである。野生生物に対して犯した過去のつぐないをなぜ無視しようとするのか、謙虚な生物への思いがあってこそ博物館活動が成立するものといえよう。先年、ＩＺＥ（国際動物園教育者会議）において、日本の野猿公苑とその教育活動について論じたが、多くの参加者の関心は、野生の危険性であったことは印象に残っている。野生動物と人間との間をむすびつける教育活動にはすべての教育者が強い関心を示していた。動物園が、万民の支持を得て、博物館として機能するためにも、動物園学習のための組織は今や不可欠なものとなってきたと考えられるのである。



学芸員による観察発表会指導

たしかに動物園教育は、正しく動物についての知識を伝えることを本義としているが、野生動物、自然そして動物園における動物の生命について十分に考察のできる人びとを育成することは忘れることのできない仕事なのである。そして動物園は無限の教材をもつ宝庫なのである。

動物園における教育者とは誰か？

21回にわたる日本動物園教育研究会においても、しばしば論じられている問題でもあるが、動物園教育は実践活動そのものであり、動物園においてその仕事に何らかの形で係わる者はすべて動物園の教育者であってほしいという願望を私は抱いている。動物園教育の担当者としての学芸員配置の必要性を考慮して、学芸員有資格者の採用を試みる動物園も増加している昨今である。

だが動物園教師は一朝一夕にしてなるものではない。それぞれの動物園が自ら育て、その機能を強化し、確保し、かつ確立するものであるといえよう。

今日の動物園教育研究の一歩一歩のつみかさねこそが、動物園教育の場を動物園のなかに定着せしめるに違いないと考えている。

（日本モンキーセンター）

駆けまわりヨーロッパ動物園日記

§　はじめに

5月22日、日本を発ち、ヨーロッパの4ヵ国の動物園を見学して6月7日帰国しました。滞在した15日間で14の動物園を訪ねるという過密スケジュールの上、行く先々で集めた資料のおかげでドンドン重くなるトランクを抱え、クタクタに疲れ果てましたが、日本の動物園人があまり訪ねたことのない東欧の動物園では自由諸国とは少し違う雰囲気も味わえました。その上、動物園にいる間は一滴の雨も降らず、約2,000枚の写真も撮れ、十分満足して帰ることができました。

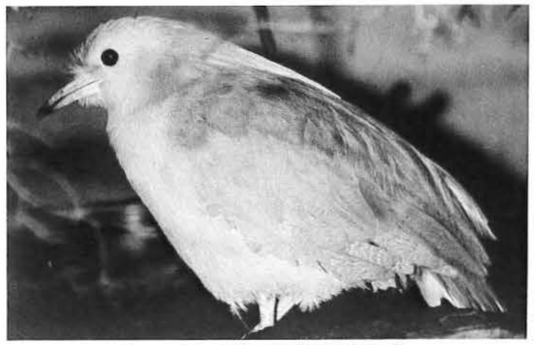
今月から3回に渡って、これら各園の感想を綴ってみたいと思います。

§　西ベルリン動物園

日本からパリ経由でまず西ベルリンへ。西ベルリン動物園に着いたのは夕方の7時でした。

入場料を取る時間はもう過ぎたとかで門番の人はタダで入れてくれました。夕方5時まで開園で、8時には門が閉まるそうです。あと1時間しかないので駆足でザッと回り、翌日見るポイントを探そうとしたのですが、あまりに広く、ポイントを見つけるより迷子にならないようにするのが精一杯でした。

翌5月24日は快晴。朝からゆっくり見学できました。午前は獣医師のゲーテンボース先生、午後はジョフケ先生が案内役をかって出てくれました。


ニューカレドニアに住む珍鳥カグー

園内はうっそうとした緑に溢れています。この動物園は大阪駅前といったところに位置しているのですが、ちょっとした森林浴が楽しめる程の木々が繁っています。翌25日からは日本のゴールデンウィークにあたる連休が始まるので、園内整備に大忙しのようでした。連休の間は朝6時開園だそうです。

少し淋しげなジャイアントパンダ

動物ではジャイアントパンダ（メスが死亡し、オス1頭でした。）、珍鳥カグー、体重500㎏のワニ、42才でまだ繁殖している戦前からのカバが印象に残りました。

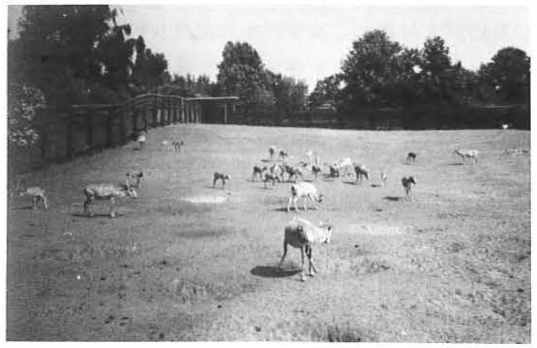
§　東ベルリン動物園

ここは広さが160 ha、職員数415名という特大の動物園です。飼育点数は4,161点ですがこれだけ広い園内ではあちらにポツリ、こちらにポツリといった感じです。家畜の展示にも力を入れているそうで、様々なタイプのウシ、ブタ、ヒツジなどが飼われていました。

室内のライオン放飼場

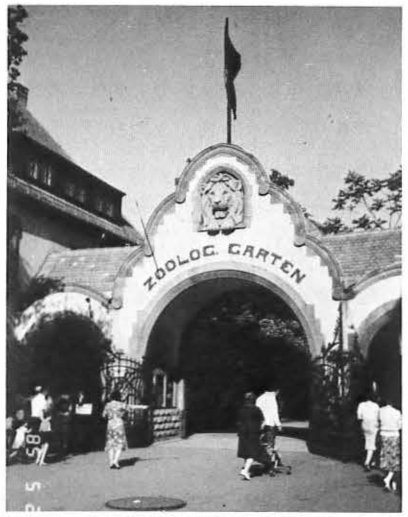
立派なレストランや、ライオンを屋内で放飼するアルフレッド・ブレーム館にも驚きましたが、一番の驚きは何といっても案内の教育担当、ルドルフ氏がウインクしながら教えてくれたサイガとカタジロダイカーでした。

サイガは中央アジアの草原に住むカモシカの一種で、日本には1頭しか飼われていませんが、ここの非公開の繁殖場では実に60数頭もおり、内20頭程は今年生まれの赤ん坊達でした。日本では珍獣と呼ばれるサイガもこれだけいると驚きを通り越して、何かウシでも眺めているような変な気分になりました。


サイガの群

§　ライプチヒ動物園

訪れた5月26日は連休中で大変な人出でした。ライプチヒ市とベトナムのホーチミン市とは姉妹都市だそうで、案内してくれたアードラー氏は昨年動物交換でホーチミン市を訪問し、ベトナムゾウをもらってきたそうです。ベトナムでは長く続いた戦争も終わり、隣国の戦火が激しくなるようにつれて、沢山の動物が逃げ込んで来ているそうです。


ライプチヒ動物園正門

珍しいジャコウシカ、お花畑のように花が咲き乱れる放飼場で飼われていたクロテナガザルが印象的でした。1時間程見学し、汽車で次の目的地、ドレスデンへ向かいました。

§　ドレスデン動物園

獣医師のポール先生がわざわざ駅まで迎えに来てくれました。ここも大変な人出です。門を入った正面にある立派なクマ舎が印象的です。建てられて100年を経た飼育舎ですが、古くささよりも、時を経たものの持つ重厚さを感じます。中央にホッキョクグマ、左にハイイログマ、右にメガネグマが飼われ、中でもホッキョクグマは毎年5、6頭繁殖しているそうです。また、ホッキョクグマだけではなく繁殖成績が良いのがウチの自慢です、とポール先生が話しておられました。実際に園内のあちらこちらで子供連れの動物達が見られました。

暖かい陽気に誘われて、大変な人出でした。

—つづく—

（長瀬　健二郎：飼育課・獣医師）

動物なんでも相談室 ⑪

＊ テナガザルは、どうしてあんな大きな声でなくのですか？

テナガザルの仲間は、７種類ぐらいに分けられていますが、それぞれなきごえが違い、ワウワウテナガザルやフーロックテナガザル等、声の特徴から名前がつけられているのもいます。それらの声は非常に大きく、かなり遠くまでひびき渡ります。特にフクロテナガザルや、コンカラーテナガザルのオスには“声のう”というものをもっていて、その声は数km四方にとどくようです。テナガザルは、ほとんどの種類がペアか、数頭の家族単位で生活し、それぞれのテリトリーというのをもっています。そこで大きな声でなくことは、他の個体への誇示と、ペア同士の絆を強める効果もあると考えられています。

（回　　答：大野　尊信）
（イラスト：山下　奉之）

＊ ニホンザルはしっぽが短いのに、なぜオナガザル科なのですか？

ニホンザルの尾が短いことによく気がつきましたね。一般的に、サルは尾が長いということが常識なようで、野猿公園などに描かれているニホンザルがりっぱな尾をもっていたり、南米のオマキザルのような巻いた尾を描いているのもあったり、またゴリラやチンパンジーでも尾をつけられたりしていることがよくあります。もっとよく調べて描いてほしいものですね。ところで、オナガザル科の仲間にはカニクイザル、アカオザル、ボンネットモンキーやヒヒなどがいて、ほとんど長い尾を持っていますが、ニホンザルは、その中でも最も尾の短い種類というわけです。サルの尾はウサギの耳と同じく冷却作用も兼ねそなえているために、一番北に生息するニホンザルは長い尾を必要としなくなったと考えられています。しかし、中国南部やタイ・ベトナムに生息している同じオナガザル科のベニガオザルも５cm程の短い尾しか持っていません。

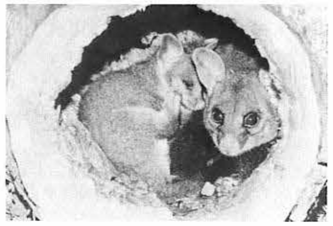
（回　　答：大野　尊信）
（イラスト：藪野　幸司）

動物園ニュース

§ フクロギツネの赤ちゃん

夜行性動物舎でフクロギツネの赤ちゃんが誕生しました。

当園ではメス２頭を飼育していますが、２頭とも育児嚢の中に小さな赤ちゃんがいることが５月末に観察されていました。７月３日に片方の赤ちゃんが死亡しましたが、もう一方は順調に成育し、６月15日に初めて袋の中から10cmぐらいに成長した無毛の赤ちゃんが観察され、８月11日頃にはかなり体毛もはえてきました。８月14日には初めて育児嚢から完全に出ているのが観察され、９月５日には餌を食べ始めるようになりました。隔離室に収容しているため、親子のかわいい姿を見ていただくことができないのが残念です。



§ シマスカンク来園

９月12日にシマスカンクのオス、メスが来園しました。２頭は川崎市夢見ケ崎動物公園のご好意でいただいたものです。さっそく、小獣舎に展示しましたが、なかなかひょうきんな姿に、人気を集めています。二世誕生に期待したいものです。

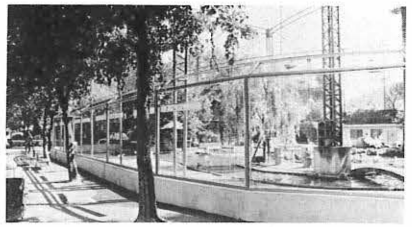
§ アカアシコガモのふ化

水禽放養舎のアカアシコガモが、９月19日に初めて繁殖しました。アカアシコガモは南アメリカに分布する小さなカモですが、当園には1983年３月23日２番が来園しています。これまで産卵はみられませんでしたが、今年は巣箱を設置したところ、さっそく８月中旬から巣箱の中で産卵し始め、８月24日頃から本格的に卵を抱き始めました。９月19日にヒナが卵の殻を割り始めていましたが、多くの鳥を雑居させ飼育していることからひなを親に育てさせることは困難であると考え、卵をふ卵器に移したところ翌日までに６羽のひなが次々ふ化しました。

なお、アカアシコガモのふ化は日本の動物園では初めてのことと思われます。

§ 動物舎の補修工事

８月から９月にかけて動物舎の補修工事が行なわれました。工事はチンパンジー舎やゾウ舎など園内各所で行なわれました。とりわけ、ゴリラ舎の寝室側通路には太陽の光をさえぎる遮光板が完成し、寝室のゴリラがよく見えるようになりました。また水禽放養舎では一部の金網をステンレスの溶接金網に替えたためたいへん見やすくなりました。



§ 動物総合感謝祭

動物愛護週間の８月23日、㈳大阪動物愛護会の主催で「動物総合感謝祭」が、動物慰霊碑前で行われました。

岸富美子知事夫人、大島直子市長夫人をはじめとする関係者の方々の出席をいただき、この一年に死亡した動物園の動物並びに大阪府下で死亡した動物のための慰霊祭が行なわれました。動物代表としてチンパンジーの“リッキー”が参列しました。

§ シンボルマーク決定

開園70周年を記念して、春の動物まつりの期間に入園者の方々に６点の候補作の中から投票していただきました動物園のシンボルマークが決定しました。決定したマークに投票していただいた方々の中から、天王寺区の馬場大希ちゃん（２才）をはじめとする50名の方々に記念品をお贈りしました。

決定したシンボルマークは、地球とＯＳＡＫＡのＯを表わした水色の円の中に哺乳類の代表としてゾウを白くぬき、鳥類の代表としてキーウィをオレンジで表わしています。また、２つの動物の接点は、小さな接点から生まれる大きな触れ合い交流の輪を示しています。

なおこのデザインは、米谷佳晃氏によるものです。

◎おわび

先月号のニュースで、ヤブツカツクリのふ化日を７月21日とお知らせしましたが、29日の誤まりでしたので、おわびして訂正いたします。

なお、９月11日に２羽目が人工ふ化し順調に成育しています。

現在の飼育動物数

（1985年８月31日現在）

哺乳類	13目	111種	449点
鳥類	19目	173種	584点
爬虫類	3目	29種	56点
計	35目	313種	1,089点

＊ 休園日のお知らせ ＊

動物園の休園日は毎月第３月曜日です。12月までの休園日は下記のとおりです。

10月21日(月)、11月18日(月)、12月16日(月)

開園時間は午前９時30分から午後５時までで、午後４時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード〈キップス〉 KIPS

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでのご利用にはいろいろな特典が。

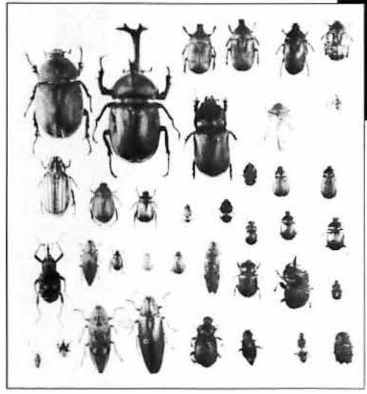
近鉄百貨店

お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階（京都ファミリー）

ひかりのくに　監修・阪口浩平　指導・宮武頼夫

●オールカラー

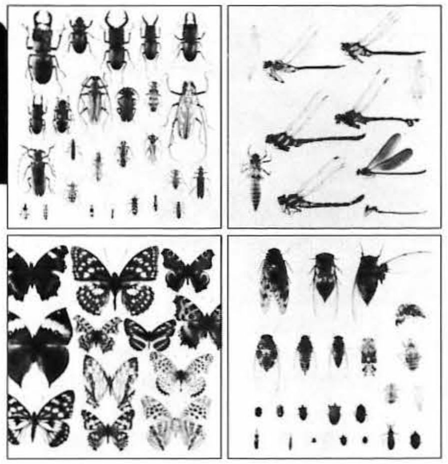
むし
くらしとかいかた



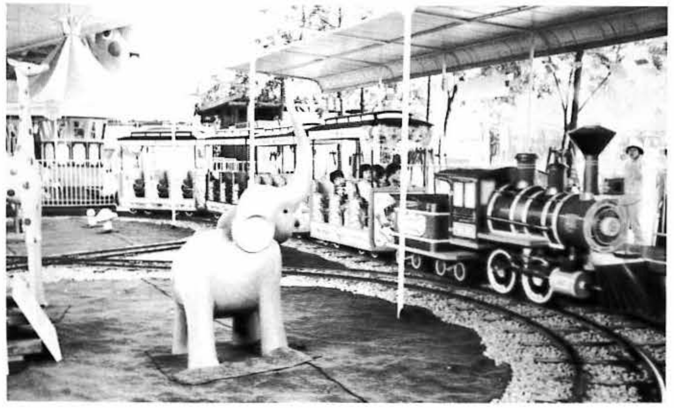
今まで、気にもとめなかった自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

B5・変形 84ページ　580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしい〝のりもの〟が待っています。



1人1回
100円
（1才まで無料）

団体割引
（30人以上）
……1割引

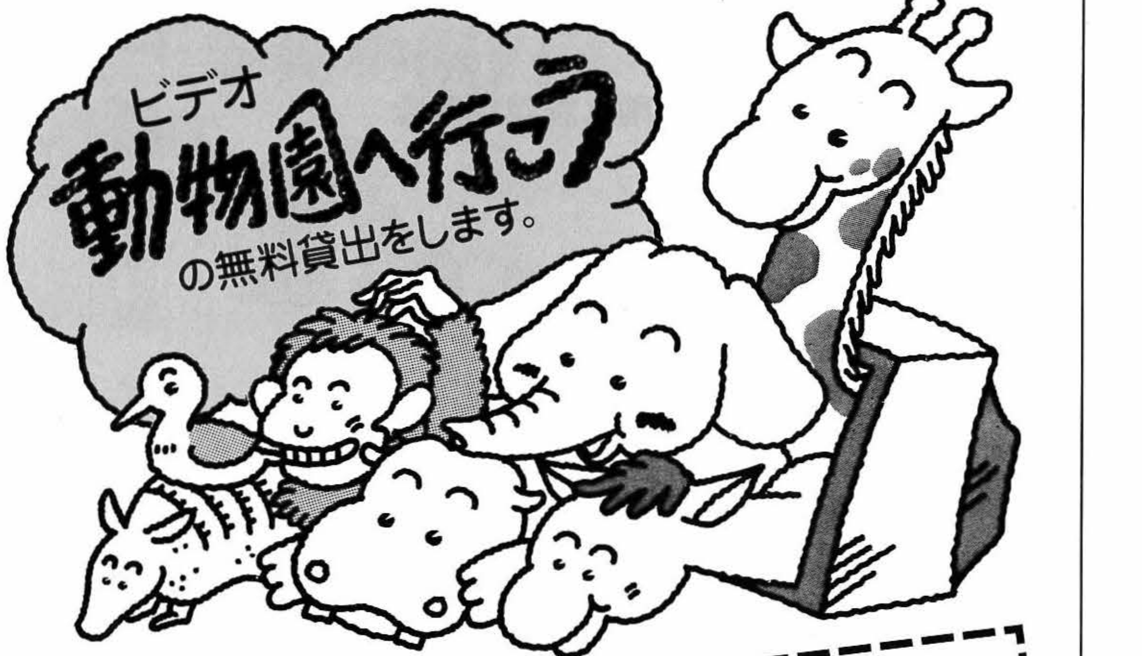
久竹娯楽株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所（南園入口横、北園ステージ横、北園高架下）に各種〝のりもの〟があります。

世界初の最高感度
（カラープリント用フィルム）
1600 新登場！

カメラの大林
桜橋本店 ☎341―8091
三番街店 ☎372―5031

フジカラーHR1600
ISO1600／33°　135-24枚撮



●貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
❶巻・20分（10本常備）
●対　象/保育園、幼稚園、小学校の先生
●貸出期間/10日間
●貸 出 料/無料（但し、郵送料450円は必要）
●申 込 先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に！
天王寺動物園
ガイドブック
のご購読をおすすめします。
（1冊¥450）園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会
〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰　平岩米吉著

新刊 **猫の歴史と奇話**

（定価・2600円　A5判・260頁　口絵挿画・113図）

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し，しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果，ここに結実。

☆学術書でありながら，推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に，猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章　猫の歴史
欧州は古代エジプト，日本は宇多天皇から近世まで

第二章　猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす

第三章　猫の報恩談
蛇を咬んだり，金を運んだりする

第四章　野性猫の存在
裏日本の山猫，離島の山猫，鬱陵島の猫の渡来など

第五章　猫の奇話(上)
長命，多産，三毛猫などの形態の奇話

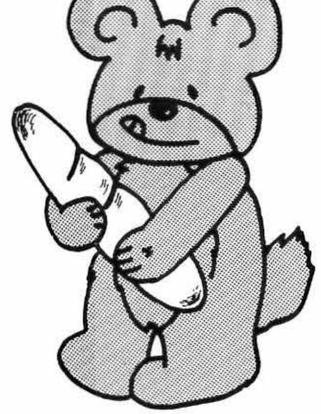
第六章　猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第七章　猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など

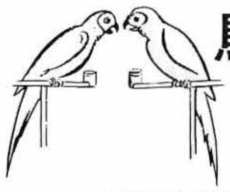
第八章　益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行　動物文学会　〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2　電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売　㈱池田書店　東京都新宿区弁天町43番地　振替・東京4-165425

動物園内での
お食事、ご休憩は



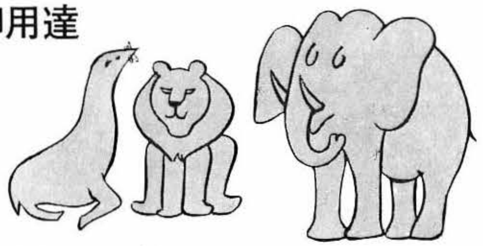
大阪市天王寺動物園内
中 央 売 店
☎ (06) 771—0973



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

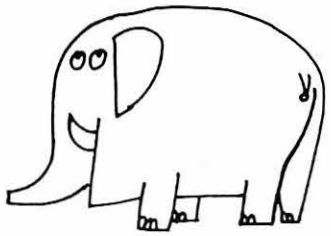
・医学実験用動物
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・原色世界雑類図鑑（34種1枚もの）要郵便券250円



有限会社　吉　川　商　会

本　社　神戸市中央区中山手通3丁目11番4号　電話(078)221-8195㈹
飼育場　兵庫県小野市来住町1513番地

天王寺動物園内

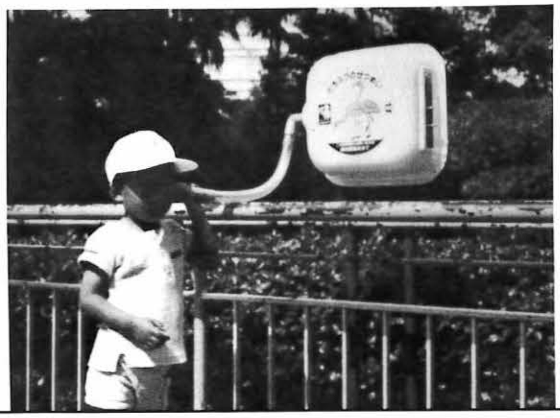


南 園 売 店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6—74
電話（06）771—7110番

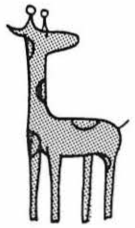
たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　20円

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 **500円**

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06—856—7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ

雪印ヨーグール

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

ペットを飼っている人にも飼えない人にも、この1冊

ペット大図鑑

好評発売中

あらゆるペットの飼い方、殖やし方、
治療法がひと目でわかります。

1部/犬・猫など 2部/リス・アライグマなどの小動物 3部/金魚・熱帯魚・海辺の生きもの 4部/洋鳥・和鳥・鳩など 5部/は虫類や昆虫など、めずらしい生きもの 巻末/ペットの便利情報ガイド

●総監修/中川道朗（大阪市天王寺動物園協会専務理事）
●監修/浦東信夫/榊原安昭/内田 至
石原重厚 ●編修協力/宮武頼夫

特別価格 2,950円
(定価3,300円) ※送料無料

同封の専用用紙または郵便局の振替用紙にて
お申込みください。振替口座/大阪5-98163

㈱グリーンアド・コミニティ
〒550 大阪市西区西本町3-1-46 TEL.(06)531-0415

サイズ AB判 (25.7×21cm)
カラー160ページ・全400ページ

なきごえ　昭和60年10月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻　第10号　（通巻242号）

編　集／大阪市天王寺動物園　〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6—74
発行人／大阪市天王寺動物園協会　中川道朗　電話　大阪（06）771—0201
印刷所／株式会社 松村善進堂　定価100円（送料共）1年継続（12部）1,100円（送料共）　振替口座　大阪　37823

編集委員（土井良彦／伊東重朗／小出雅三／樽本　勲／中川哲男／前田豊彦／宮下　実／長瀬健二郎／榊原安昭／森本委利
大野尊信／山下奉之／農本武志／野口秀高／早川　篤／薮野幸司／堀　弘／大川光雄）